

中期目標の制定について

事 務 局	諮問書に沿って説明
阪 口 委 員	それでは、この2つの団体に関して、各委員から意見、質問はありますか。
清 水 委 員	大阪社会医療センターですが、4(3)の「窓口や各種支援機関等を通じて」ということで、概念が明確化はされていると思うんですけども、(1)にある無料低額診療に関するところとの考え方といいですか、「医療・福祉に関する相談支援等のサービス」についてはここに含まれるのだとは理解できるんですけど、無料低額診療は、4(3)でいう目標値での「当該サービスが提供されていないもの」には含まれないという考え方でよろしいんですかね。
事 務 局	含まれないということではなく、無料低額診療は、何らかの事情で無保険で10割負担となると、高額で医療が必要であっても、受診に行きたいけど行かれないような方のためのものです。
清 水 委 員	入り口としては、まず相談から入るので、そこで把握できるということですか。
事 務 局	はい、そういうことで、支援機関でそういう人が来られたらつないでもらうという意味合いです。
阪 口 委 員	拒むということはないという前提とすると、結局は4(3)のところで、「窓口や」という、現実には相談に来ている人というのが分母ということになってしまって、それでいいのかと。それ以外に何か広く周知するみたいな指標をとるのかどうかですよね。
清 水 委 員	そうですね。だから、ここは数量的に分母を把握するのは難しいと思いますので、これでいいのかと思うんですけどね。だから、その目標ゼロというのが、無料低額診療の相談に来られた方で必要と認めた方が受けられない状態はゼロですよというのと、それ以外の一般の医療・福祉に関する相談支援等、窓口に来られた方、内容が2つに分けたほうがわかりやすいのかなという気がします。 それと4(5)のところの指標は体制強化の指標のような感じがしますので、周知というところも4(4)で書かれていますので、周知に対する指標みたいなのはやっぱり4(4)で書いている限りは必要ではないかと思うんですけど、それをどういうふうに考えるのか
阪 口 委 員	周知に関する適切な指標というのは難しいから、多分こういう数字を把握できるものをベースにしているんだよね。周知に関する指標というのは考えたけど無いということなんですかね。文章では、確かに周知という概念が入ってはいるんですけど。
事 務 局	結局、団体を通じて支援機関に働きかけた頻度とかということぐらいで、なかなかはかりづらいということです。
阪 口 委 員	それだとまたあまり意味がないような気がします、ほかの先生方いかがですか。
市 口 委 員	大阪社会医療センターの4(1)のところなんです、 「外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容」というところで、あいりん地区及びその周辺地域においてのサービスを総合的かつ一体的に提供することですけれども、あいりん地区というのはある程度はつきりしていると思うんですけど、「その周辺地域」というのは、何か定義づけができていないというふうに

	思っておいていいんですよ。
事 務 局	はい。所管所属では定義があるかと思います。
阪 口 委 員	この場合、あいりん地区と離れているところから来ても無料低額診療を受けられるのか、それとも区域外だから受けられないというような議論はあるんですか。
事 務 局	通常、そういう拒み方はしないかと思いますが、もともとの目的が、その地域の方を支援するという趣旨ですけど、医療機関ですので、地域外から来られた方の診療を拒むようなことは当然ありません。
市 口 委 員	少しその辺が気になったので。それと、指標のところで、相談された方が当該サービスを提供されていないという数をゼロにする。これはいいと思うんですけども、当然ながら、このような場合、どういう相談者が来て、どういう相談内容で、それに対してどういうふうにサービスの提供をしたかという記録というか、モニタリングがきちんとできていないと、目標が適切なものになっているということにならないと思いますので、当然、所管局ではきちんとモニタリングなどをされるのだろうと思うので、その辺はしっかり見ていただきたいと思います。
野 村 委 員	先ほどのこちらからの働きかけということでは、相談件数を目標に設定するというのも一応考えられるのかなと思ったんですけど、それぐらいしかやり方がないかなという気がするんですけど。
阪 口 委 員	全体件数でね。
野 村 委 員	目標に置くとすればですけども。
阪 口 委 員	それは、なかなかコントロールできない数字だから。何か全く偶然の事情で人がなくなったら減ってしまい、逆に別の要因で大幅に増えたりするのでね。だから、結果であって、なかなか進捗とイコールかと言われると、でも、結果は大事だと言われたら、それは結果も大事かもわからないし、難しいね。
清 水 委 員	4(5)のところの指標の最後に、「周辺各機関との連携状況など」ということで入っていますので、連携状況というところが、新病院についてのいろんなサービスの体制みたいなものを周辺連携機関とどのように連携をより深めていくかという指標みたいなものを考えられているような感じはするんですよ。だから、具体的に数値的なものにつながるかもしれないのではと、今、改めて思っているんですけどね。
阪 口 委 員	なるほど。例えば、他の病院とか、病院に限らず、行政でもいいんだけど、そこと何か連携協定みたいなものの件数みたいなイメージですか。
清 水 委 員	初年度ですので、1年目はそれほどではないと思うんですが。一応内容的には周知に関する事項もカバーされていると。
水 上 委 員	公立病院なんかだと、紹介率ですかね。紹介件数の率なんかで連携の状況といったこともあるかと思いますが、どこまでの定量化にこだわるかというところはあると思います。今回の2団体の差ですけども、中期目標の期間で、社会医療センターのほうは5年間で、水道総合サービスのほうが4年間ということですけど、その差というのは何か理由があるのでしょうか。
事 務 局	すみません、そこは確認できておりません。
水 上 委 員	水道総合サービスについて、先ほどから、どれぐらい積極的に行政のほうを目標を

	設定していくのかという話があったかと思いますが、4 (3)の研修の受講枠、520名ということで、先ほどの説明では実績のベースから出されていた数字という話だったと思うんですが、4 (1)の目的に対して520というのがどういう意味を持つのかということですね。周辺の自治体で大体何名ぐらいを想定しているとか、そういった説明の仕方というのはできる数字なんですかね。
事 務 局	所管局から聞いているのは、トータルであふれてしまう人数を減らすことを目指したいということで、申し込み人数からあふれた人数を減らすということで、8割程度にとどまっているのを9割程度に増やしたいということで聞いていますので、その周辺自治体の見積もりなどは特段出ておりません。
阪 口 委 員	先ほど、水道総合サービスの中期計画という以上は、最終年度だけだと目標としては中途半端な状態になっているので、これは年度ごとにやろうと思うと、例えば、先ほど、現状が8割で、それを9割に持っていきますというのだったら、80、82.5、85みたいなパーセンテージがいいのか、それとも、463人から520人という人数単位でやっていくのがいいのかはともかく、そこは区切りを何かで入れていくのではないかと思うが、それは何かあり得るんですかね。
事 務 局	もちろんあり得ると思います。
阪 口 委 員	この目標との関係でいうと、パーセンテージのほうが適切な指標なのか、人数のほうが適切な指標なのかというのは、それはどっちもあり得ると思うんですよね。もともと研修を希望しているのに受講させられない、体制が整っていないという意味でいうとパーセンテージのような気もするし、例えば周辺自治体の関係者が、仮に5,000人いるとすれば、そこをもっと上げていかなきゃいけないんじゃないかなって来ると、結局絶対数のような気もするし、それはどうなんですかね。どっちもあるような気はするんですが、何かそういう年度ごとの指標をパーセンテージか人数か、どちらが適切かわからないけど、何か指標をつくっていくということはあるんですか。
事 務 局	所管所属から聞いておりますのは、パーセントの検討もされたようなんですが、ただ、先生がおっしゃったような趣旨ではなくて、パーセントで出してしまうと、研修の内容といいますか、テーマによって不人気項目を当てにいくと、希望者が低いから割合が上がって、何かそういう恣意的なことをしたということになってはいけないので、直近の数で、絶対数で出しましたというようなことは聞いてはおりますけれども、確かに今おっしゃっていただいたご意見のように、率のほうかという考え方は当然あるかと思いますが、その辺はご意見としていただければ伝達させていただきます。
野 村 委 員	今のパーセントというのは、例えば応募した人に対して全員受け入れられたら100というような意味かなと思っていたんですが、例えば、もともと100の席があって、あまり人気なくて60しか来ませんでした。それは全員受け入れられているので100%という理解でいいのかなと思っていたんですが、考え方はそういうことでいいんですか。
阪 口 委 員	今言われているのはそういうことだよな。

事 務 局	はい。
阪 口 委 員	希望者を分母にする公式ですよ。会場の席の数ではなくてね。
事 務 局	そういう意味では、確かに席の数でいいですよ、席の数で設定してしまいますと、100%受けたとしても、その数に足りていなかったら達成できなかったということにも確かになりかねない。
阪 口 委 員	狭い部屋を用意したらいいということになるからね。それもどうかと思うので。人数がいいのかパーセンテージがいいのか、どっちかかなとは思いますがね。先ほど野村委員がおっしゃったとおり、本来、関係者が、例えば近隣に3,000人いるんだと。その3,000人に対する500人とか、そういう考え方ももちろんあると思うんですよ。それは1つの方法だけど、ただ、母数がうまくはかれないんじゃないかと思うんだよね。近隣地域のうちのどこで母数を拾うんだとかね。
野 村 委 員	先ほど、この520を設定された趣旨というのが、去年、四百何人しか無理だったとかいうことからこうしましたというのであれば、パーセントのほうが何かしっくり来るのかなという気はしますけど。
阪 口 委 員	なるほど。では、ここは諮問との関係でいうと、答申として、年度ごと、区切りを入りたいというのは当然言うことだと。その指標として人数が適切なのか、パーセンテージが適切なのか、さらに検討されたいみたいなことになるのかな。端的に我々がこうすべきだとまで言っているのかということもあると思う。
事 務 局	この後、中期計画を協議してつくりますので、そのプロセスにおいて十分検討して、そこに織り込むのかというふうな、そういうご意見の出していただき方はあるのかなというふうに思いますし、その際、あわせて中期目標自体も、これは事前に諮問させていただいておりますので、そういう内容も含めて中期目標に反映されたいと。中期目標の策定に当たってはそういう内容のものを協議して盛り込まれたいとか、そういう形のご意見というのはあり得るのかなとは思いますが
阪 口 委 員	現段階で、委員会として絶対パーセントでなければだめだとまで言えるだけの情報を持っていないと思うんですよ。ただ、そこら辺をよく検討されたいということをお答申としてつけ加えたいと思う。社会医療センターの周知とか紹介率とか、その辺もさらに何か答申に入れるかどうか、この辺はどうですか。そこまではもういいのか。連携状況ということに書いてあるから、連携状況のどこをもう少し考えられたいということになるのかな。
清 水 委 員	そうですね。可能な限り定量的な指標として検討されたい。
阪 口 委 員	では、大阪社会医療センターについて、これで問題ないんだけど、指標のところの、特に周知に関係するような指標、周辺関係各機関との連携状況などについて、可能な限り客観的に、数値的に把握できる適切な指標を検討されたいと、こういう付言というか、おまけをつけて諮問に答えるという形かなと。 それから、先ほどの水道総合サービスに関しては、年度ごと、ちゃんとやってねということと、それから、目標の数値のとり方も、人数がいいのか率がいいのか、さらに検討されたいと、こういうことでどうでしょうか。時間のこともあるので。
清 水 委 員	はい、そうですね。

阪 口 委 員	では、そういう形でいいですか。
事 務 局	はい。答申の文言はまた事務局から委員長に確認させていただくということでしょう。
委 員 一 同	はい。
阪 口 委 員	そうさせていただいて、これでまずは最初の中期目標の制定についての検討を終わります。